

第三回講座「救急法I(救急救命)」

パークレンジャー養成基礎研修

2021/5/16

NPO法人日本パークレンジャー協会



1. 救急救命の考え方

目の前で人が倒れて心肺が停止した人がいる時、救命処置の方法を知っていればその人の命を救うことができる可能性があります

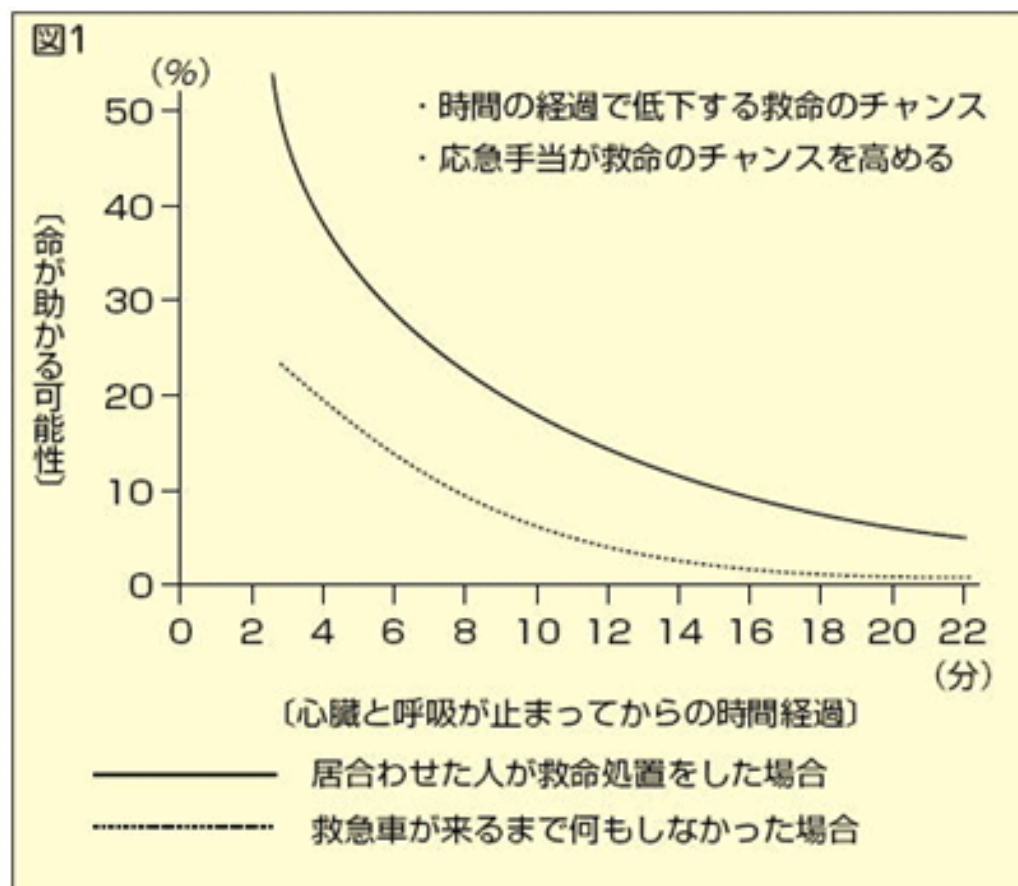
自然災害はもとより普段の生活ので不慮の事態はいつ起こるか分かりません
救命処置は全ての人が覚えておくべきスキルだと思います

一次救命処置の目的

人は心臓と肺が止まると生存率は時間の経過とともに急速に減少します
すぐ救急車を呼んでも何もせず心肺停止状態のまま傷病者を放置すると生存の可能性は短時間に無くなります

一次救命処置の目的は救急車が到着するまでにあなたが心肺停止した人の肺に空気を送り心臓を圧迫して血液を脳に送って可能な限り生存率を上げることにあります

2. 救命曲線(経過時間と救命率)



Holmberg M et al. Effect of bystander cardiopulmonary resuscitation in out-of-hospital cardiac arrest patients in Sweden. Resuscitation 47:59-70, 2000. より、一部改変して引用

3. 救命の連鎖



心停止の予防

早期認識と通報

一次救命処置

二次救命処置と
心拍再開後の集中治療

3-1 救命の連鎖

①心停止の予防

子どもたちの突然死を予防する:溺水、過度なスポーツ、熱中症など
心筋梗塞や脳卒中など生活習慣病の予防など

②早期認識と通報

突然倒れた人を見たら心停止を疑い、心停止の可能性があれば
すぐ大声で応援を呼び119番通報とAEDの手配を頼む

③一次救命処置

止まった心臓と肺を心肺蘇生法(CPR)やAEDによって助ける
脳は心臓が止まると15秒以内に意識がなくなり3~4分以上経つと
回復が困難になる
その場に居合わせた「あなた」が心肺蘇生法を行うことで救命の
チャンスを高めることができます

④二次救命処置

救急救命士や医師が薬や器具を使い心臓の動きを取り戻す作業をする
心臓が動けば専門家による集中治療と社会復帰を目指す

4. 救命のリレー



心臓や呼吸が止まると1分1秒を争います

必要なことは「すぐに119番通報」して下さい

119番通報が早ければ早いほど救急隊員による救命処置を早く受けることができますが、救急車がくる時間は全国平均で約8分間かかります

そこで救急車が来るまで現場に居合わせた「市民」が心肺蘇生を施し「救急隊」～「医師」へ命のバトンを引き継ぐことが大切です

5. 市民が一次救命処置をすることの責任

救急の現場に居合わせた人のことを「バイスタンダー」と言う

民法では倒れた人を助けようとするバイスタンダーの善意の行為について「悪意又は重過失」がない限り傷病者から責任を問われることはない

「善きサマリア人の法」：
海外には緊急に救助を行う人が報酬を期待せずに誠実に行った場合は責任を問わないと言う法

逆に救助(急)法を知っているのに何もしないで助けなかったことについて責任を問われる

6. 日赤の救急救命のやり方を見る

[【日本赤十字社】一次救命処置（BLS）～心肺蘇生とAED～（字幕あり） - YouTube](#)